

● ニュージーランドの社会保障制度について

団員 渡部 克彦

今回の行政視察の私の担当する社会福祉についての報告する。

まず、ニュージーランド、オークランド市及び視察先のオークランド市内ワイテマタ地域の概要である。

ニュージーランドは人口440万人（2012年ニュージーランド統計局推計）である。一説によれば444万4,444人を超えたとの情報もあるが、2011年に行われる予定であった国勢調査がクライストチャーチ地域を襲った大地震により延期され、正確な情報はない。

オークランド市は広域合併をして人口約143万人（総人口の3分の1以上が居住し、まさしくニュージーランドの経済の中心地）のスーパーシティである。

視察先のオークランド市ワイテマタ地域は人口52万5,000人、65歳以上の方は55,000人（高齢化率は10.4%）

参考までに松山は人口51万3,000人、65歳以上の方は115,000人（高齢化率は22.4%）である。

全国に20ある保健局のうちワイテマタ地域を所管する保健局は南北59.3km、東西37kmの広範囲をカバーし市内の人口集中地域を管轄する。

この地域は今後15年以内に11万4,000人の増加が見込まれ、また、多くの人種が居住している。多くはヨーロッパ系の人種であるが、国策で移民を受け入れる政策をとっているため、今後も多くの人の流入が予想され、これからの課題が山積している地域である。

アジア系の人種も人口の1割程である。特に中国、インド、韓国からの移民、



（南半球で最も高いスカイタワーを市内から望む）

居住者が多くいる。

また、日本からの移民、居住者はアジア系の人種のうち2.5%程である。先住民のマオリ系は人口の約10%を占める。

通訳の話では国会議員の議席のうちマオリ系の議席が確保されているとの事である。(地方議員にはない)



(ピルチャー氏から説明を受ける視察団)

ワイテマタ地方保健委員会ノースショア病院の視察訪問では、キャロル・ピルチャー氏に温かく出迎えをしていただき、まず病院の施設及び近隣施設の概要を受ける。

訪れた病院の隣接地にリタイヤメント・ビレッジという高齢者のみが暮らす小さな集落(緑の多いアパート・マンション)が

あったのが印象的であった。(民間が運営し有料である。)

その後、病院内で、老人医学 認定看護師であるキャロル・ピルチャー氏の説明を受けた。

当病院は1次ケアの地域の病院であり一次ケアで行っている老人学ナースサービス(老人学は医学・生物学・心理学・社会学などの面から老齡期における諸問題を総合的に研究する学問)は年配者向けの地域サービスの一つである。

55,000人の65歳以上の方で85歳以上の方は約6,000人、85歳以上の方で63%の方は介護なし(3,780人)、23%の方は自宅介護を受け(1,380人)、14%の方が老人ホームに入居されている。(840人)

軽症のうちから看護師、介護士、医者が自宅での介護を受けられるように助言、指導を行っている。

さらに、サポートグループがありボランティアで毎日1回電話し(市内通話は基本料金に含まれているため、追加費用が発生しない)、安否確認や話し合い手になったりしている。

ところで、ニュージーランドでは健康保健は民間が運営しており、約40%の国民が加入し日本のような国民皆保健制度はないとの事である。緊急時(けが)、出産の場合は除外され、年金制度はシングルの場合348ニュージーランドドル/週(日本円で約23,000円)の受給、夫婦の場合536ニュージーランドドル/週(同約35,000円)である。

日本の介護保険のような要支援、要介護認定は以前には行っていたが現在は廃止をしているとのことであった。

多民族国家のため課題もあり先住民のマオリ、ポリネシア系の方は寿命が短いことから一般では65歳から受けられるサービスが、55歳から受けることが可能であるなど、一定の配慮がされている。

質疑応答で特定健康診査(メタボリックシンドローム)のような制度はあるか尋ねたところ、食生活の改善を指導するが画一的診査はないとのことであった。個々に密接に接し精神的なサポートの取り組みを感じた。



(ノースショア病院での質疑応答)

充実したサービスを提供してきたこと、またサービスを向上させることで年配者の生活を改善できていると説明された。

ニュージーランドは社会保障の財源を国が持ち(消費税15%・所得税最高税率29%などにより拠出)運営をしている。

年金、介護、健康保険等別々の窓口を持つ日本とは大きな違いである。

日本においても根本的な見直し、改革が必要と強く感じた。

自然が多く残り温暖な気候から、オークランドは世界で住みやすい都市の上

位に常にランキングされているとのことであり、機会があれば再度訪れてみたいと思った。